

第2回 即興型ディベート基礎講座 Report

●日 時	2014年7月5日（土）
●場 所	本校4F会議室
●指 導 者	中川智皓先生、社会人3名、九州大学生4名
●参 加 者	生徒49名（男子19名／女子30名）
●準 備 物	スクリーン、PC（1台）、プロジェクター（1台）、スピーカー
●実 践 演 習	①Convenience stores should be closed late at night. ②We should abolish the zoo.

1	前回の反省 前回の総括と、今回は前回の反省点をふまえて、ディベートで使える基本フレーズをどの程度知っているか事前診断単語/フレーズテストを実施しました。	
2	事前学習・活動①【60分】 『英語で英単語の意味を伝える』 ～中川智皓先生より～ スカイプを用いて、今回のディベート講座が始まりました。まず、これからする活動について例を用いて説明がありました。生徒たちも集中してスクリーンの中川先生の例を聞き、答えていました。 その後、10個の英単語が書かれたワードリストが配布され、各自準備をして各英単語を英語で説明、グループ内で発表（当て合）をしました。	
3	講義『立論』【20分】 『立論とは何か』それが即興型ディベートにどのように役立つか、についての講義がありました。 立論とは論点を立てることであり、 ①サインポスト（見出し、題名をつける） ②現状分析（Status Quo/After plan） ③AREA 別名[三角ロジック]	

	(Assertion/Reason/Example/Assertion)の3点について説明がありました。主張には理由や例を加えると具体性が出て、より説得できるため、15分間の準備時間で理由や例を準備できるように役割分担をすることも大切なことである、今日の実践ではそのことを意識して取り組むようにお話しがありました。生徒も集中して講義を受けていました。
4	<p>実践① “Convenience stores should be closed late at night.”【60分】</p> <p>15分の準備時間をとり、実際にディベートを各グループで実践しました。前回に比べ、明らかにディベートの形式に慣れた様子が窺われました。</p>
5	<p>実践② “We should abolish the zoo.”【50分】</p> <p>実践①と同様に、準備時間を経て、実践にうつりました。前回よりも今回、今回の中でも1回目より2回目と、回を重ねるごとに生徒たちの積極性が増しているようでした。出来るだけ場数を踏むことが大事なのだと感じました。</p>
6	<p>感想・反省【10分】</p> <p>難しさ、悔しさはあるものの、全体的に前回よりも話せたという感想が多く見られました。</p>